

東日本大震災へのお見舞い

日本加速器学会 会長 神谷幸秀

今回の東北地方太平洋沖地震により加速器関係の施設でも多々被害が出ていると聞き及んでいます。私が所属している KEK でもかなりの被害があり、現時点では復旧の目処がたっていない状況です。

この号が皆さんのお手元に届く頃には詳細な状況がわかってくるかと思いますが、まずは、ここに、震災により亡くなられた数多くの方々に衷心より哀悼の意を表します。

また、地震の被災者の方々及び福島原発事故に伴う避難者の方々に心からお見舞いを申し上げます。

会員の中には、直接、被害に遭われた方もいらっしゃるでしょうし、また一個人として、さらには組織の一員として被災地への支援活動に現在、参加されている方もいらっしゃるものと存じます。

残念なことではありますが、学会という組織はこのような事態に即応することに全く無力であると痛感させられました。しかしながら、中長期的には、この未曾有の危機を乗り越え、我が国を元気にするために不可欠となる、新たな産業・科学技術・文化の振興、雇用促進、生きがいのある仕事の提供などに加速器及びその関連分野は、必ずや貢献することができる、少なくとも一助となることができると信じています。

たとえば、放射光・中性子などの量子ビームを利用した再生エネルギー・省エネ技術の開発、加速器及び関連分野による最先端技術開発、加速器を利用した核廃棄物処理、未臨界炉の開発、ミュオンによる原発の透視等々が考えられると思います。会員の皆様方におかれましても、加速器が今後の復興で何ができるかということに関心を持ち、日々の活動に精進していただきますようお願い申し上げます。